

平成30年度特別支援教育プロジェクト実施計画

(学長戦略経費(重点分野研究プロジェクト)研究実施計画)

報告者氏名・所属	安井友康・札幌校
研究プロジェクトの名称	特別な教育的ニーズに対応する人材育成のための情報支援 —支援教材の作成とICTを活用した情報提供—
プロジェクト担当者 (氏名・所属・職) ※代表者に●を付すこと	青山 眞二 ・札幌校・教授 齊藤 真善 ・札幌校・准教授 池田 千紗 ・札幌校・准教授 千賀 愛 ・札幌校・准教授 三浦 哲 ・札幌校・教授 ●安井 友康 ・札幌校・教授 小野寺基史 ・教職大学院・教授 萩原 拓 ・旭川校・教授 蔦森 英史 ・旭川校・准教授 片桐 正敏 ・旭川校・准教授 二宮 信一 ・釧路校・教授 小淵 隆司 ・釧路校・准教授 戸田 竜也 ・釧路校・講師 阿部美穂子 ・釧路校・教授 五十嵐靖夫 ・函館校・教授 北村 博幸 ・函館校・教授 細谷 一博 ・函館校・准教授 大山 祐太 ・岩見沢校・講師 太田千佳子 ・附属特別支学校・副校長 吉呑 正美 ・附属札幌小中学校特別支援学級・特任教頭
研究プロジェクトの概要等	
発達障害児を含め多様な教育的ニーズのある子どもを含めたインクルーシブ教育の実施に向けた環境整備が進められようとしている。特別支援教育の教員のみならず、通常学級における特別な教育的ニーズのある子どもやその保護者に対し、地域の特性に応じた教育的支援ができるような人材育成のための環境構築が求められている。これまで中期計画に基づき進められてきた本学のプロジェクト(H22-27年度)において、特別支援に関する情報提供のシステムを構築してきた。これらを利用し、通常学校ならびに特別支援学校の教員を育成するための支援方法と教材に関する情報提供の環境整備を進めるとともに、その効果に関する資料を収集する。	

今後の研究実施計画

【平成30年度】

1. 教材の評価と再構築

- ・「特別な教育的ニーズに対応する人材育成のための情報支援」として取り組んだ支援教材の作成と情報ネットワークを活用した情報提供の方法について、学内外の意見や活用方法をモニターすることで、その評価を実施する。さらにこれらの評価をもとにして得られた資料をもとに、教材や支援方法に関する再構築を実施する。全キャンパスの関係教員が協力することにより、地域特性に応じた教材や支援方法、情報支援に関する情報構築につながる。
- ・これらの活動を通して、障害児者の支援方法に関する開発と評価のサイクルを構築するにつなげるものと思われる。さらに学部における教員養成と教職大学院、附属学校（附属特別支援学校・附属札幌小中学校特別支援学級）の連携のもと、障害のある子どもの支援方法と人材育成方法についての検討を進める。
- ・これらの課題を実現するため、各地の取り組みに関する情報収集とともに、講習会などを通して現場の教員への情報提供を実施するとともに、情報支援に関する評価を行う。
- ・なおこれらの取り組みは、中期目標の「教員養成機能における北海道の拠点的作用を果たすため、学校現場や地域に生起する様々な課題解決に資する研究を重点的に支援・促進して、その研究成果を学校現場や地域に発信・還元する」ことにつながるものである。さらに中期計画15 学部全体として、へき地・小規模校教育、特別支援教育に密着した研究に対して重点的に学長戦略経費を投入し、その研究成果を学術的に発信するだけでなく、本学の教員養成教育の充実のために活用し、地域の様々な教育課題の解決に応用する。さらに、学科においては、ステークホルダーの意見を取り入れる仕組みを作り、地域に貢献する人材養成プログラムの開発を行う。また、地域や文化価値に関する現代的・学際的探求を進め、研究成果を地域の様々な課題解決に活用する」ことにつながる取り組みとなる。

2. 附属特別支援学校等との連携事業

- ・キャンパスによって学ぶ特徴がそれぞれ違う特別支援教育専攻の学生同士が交流することにより、専門性を高める機会を設ける。相互に違う実践経験をしている学生が、直接又はテレビ会議等を活用して交流する場を設ける。
- ・附属特別支援学校の職員が、研修の機会が少ない道内地域に必要な研修会を提供するために関係者と連携しながら、研修会の企画運営を行う。
- ・教職大学院との連携として教職大学院で学ぶ学生の臨床の場としての授業場面の提供をする(函館校)。内容によってテレビ会議等で他のキャンパスの教職大学院生とも同時に研修を行い、授業後のカンファレンスなどを試行する。